

記者会見要旨(2025年9月11日)

I 南会長挨拶

1. 第46回日本公認会計士協会研究大会大阪大会2025にお越しいただきありがとうございます。協会会長として一言ご挨拶申し上げます。
2. この研究大会は、会員の研究成果を全国の会員の前で発表するとともに、外部有識者、実務家等から研究成果を発表してもらうことにより、知識の吸収及び資質の向上を図ること、社会との親交を深め、公認会計士の意見発信の場を提供するといった趣旨で開催しています。
3. 日本公認会計士協会の研究大会は、1979年に第1回が開催され、各地域との交流を深めることも目的として全国で開催されており、近畿としては、2007年以来18年ぶりの開催となります。
4. 本日の研究大会の開催に向けて近畿会会員及び関係者が力を合わせて努力をしております。
5. 大阪大会の内容につきましては、このあと後藤実行委員長からご説明いたします。
6. 本日はこの努力の成果を皆様にご覧いただける機会でございますので、ぜひ、大阪大会にご参加いただき、公認会計士への理解をより深めていただければと考えております。

II 「第46回日本公認会計士協会研究大会 大阪大会 2025」について

7. 本日、グランキューブ大阪（大阪府立国際会議場）におきまして、「第46回日本公認会計士協会研究大会大阪大会2025」を開催いたします。
8. 近畿会での開催は、第28回（2007年）のCAPA（アジア・太平洋会計士連盟）大阪大会との同時開催から18年ぶりとなります。
9. 本日は全国より1,000名を超える公認会計士が一堂に会し、建築家の隈研吾氏による記念講演「緑の時代」の後、10の研究発表を行い、最後に記念パーティーを予定しております。
10. 本年4月13日から大阪・関西万博が開催されていますが、多くの公認会計士にこの研究大会を機として、万博に、そして関西に足を運んでいただきたいと考えて、開催を誘致しました。
11. 大阪・関西万博のメインテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」です。これに呼応して、公認会計士が描く「いのち輝く未来社会のデザイン」を考える場とすべく研究大会のテーマは「いのち輝く未来社会における公認会計士の役割」としました。
12. 公認会計士の専門領域である会計と監査は、健全な経済社会の基本的なインフラです。企業情報は、財務情報からサステナビリティ情報へと拡大しており、公認会計士の活躍の場も、財務情報の信頼性確保のみならず、サステナビリティ情報の作成、そしてその保証へと広がっています。
13. この新たな領域において社会的要請に応え、信頼の力で未来を切り拓くためには、会計や監査のプロフェッショナルとしての原点に立ち返り、様々な社

- 会的課題を乗り越え「いのち輝く未来社会」を実現に向けて、自らの役割を明確にし、変化に積極的に対応することが求められていると考えています。
14. 現在、サステナビリティ情報の開示制度、保証制度に関して検討が進んでいます。会計や監査を含む保証業務の専門家として、公認会計士が責任をもって取り組んでいくという決意を確認する場としたいと考えています。
 15. いのち輝く未来社会において公認会計士の役割を考えるには、真にサステナブルな社会を目指すための確固たる理念が必要です。そこで、隈研吾氏に講演をお願いしました。記念講演では、街づくりの観点からサステナブルな未来を考察し、高いデザイン性と木材などの自然素材を用いた「環境に溶け込む建築」を通じた、地球環境や社会課題の解決への取組についてお話いただきます。公認会計士にとって示唆に富む内容となることでしょう。
 16. 大阪・関西万博に関連して、本研究大会を万博開催期間中に実施するだけでなく、近畿会として TEAM EXPO 2025 に参加し、共創チャレンジャーとして以下の2つの取組みに登録しています。
 - ・ 『大学生の会計リテラシー向上のため、「ビジネスゲーム」を広めます！』
 - ・ 『将来の環境変化に適応できる社会を！』前者は、会計リテラシーの普及の一環として、関西の大学の協力を得て、大学対抗でのビジネスゲームを6月に実施しました。後者は、明日9月12日、万博会場のフューチャーライフヴィレッジで一般の方を対象とするステージ発表を行います。
 17. 協会会員にとって、この研究大会が有意義な研鑽と交流の機会となることを祈念しております。

Ⅲ 近畿会会長挨拶

18. 日本公認会計士協会には16の支部(これを地域会と呼称している。)があり、この全国研究大会は、基本的には16ある地域会が毎年持ち回りで開催してきました。近畿会も前回開催から18年ぶりの開催です。
19. 近畿会は、大阪府・奈良県・和歌山県の3府県に主たる勤務先や会計事務所を有する公認会計士(会員)及び準会員で構成されており、会員約4,100人、準会員約1,000人の合計5,100人ほどが所属しています。
20. 全国でも東京会に次ぐ規模の地域会であり、16地域会の中でも非常に活発な活動を行っている地域会です。
21. この地域会の役割は様々ですが、特に重要な役割は、地域会会員の資質向上や業務支援のための施策、公認会計士制度の周知を図るための施策、地域社会に貢献するための施策を行うことです。
22. 私は2025年6月17日から近畿会会長になりましたが、「多様な領域で活躍する公認会計士の力で地域経済の発展に貢献する」というスローガンを掲げて会務を執行しています。
23. 我々公認会計士の活動領域は財務情報の保証業務には留まらず拡大・多様化しており、より多様な立場から国民経済の発展に寄与することが求められています。
24. 実際、保証業務においては、本研究大会のひとつの研究発表テーマでもある

- 「サステナビリティ情報の保証業務」についても、従来の財務情報の保証業務からその業務対象を拡大しようとしているものです。
25. また、保証業務以外の分野においては、公認会計士がコンサルティング業務、税務業務、非営利関連業務、一般事業会社や地方公共団体勤務等の様々な立場で活動しています。
 26. これら多様な領域で活動する公認会計士一人ひとりがプロフェッショナルとしての誇りをもってより一層活躍し、地域経済の健全な発展に貢献するための基盤として会務運営を推進するという決意を込めたスローガンとなっております。
 27. 特に近年増加している「組織内会計士（これは、一般事業会社、国・地方自治体等に就職し、組織の中で活動している公認会計士をいう。）」のネットワークづくりを支援するための施策も行っているところです。
 28. さらに、将来にわたって多様な人材に公認会計士という資格を目指してもらうために、小中学生を対象にした「ハロー！会計」という、ゲーム感覚で「会計」を学べる会計講座の実施や、高等学校、大学に出向いて「公認会計士制度説明会」の実施を通じて公認会計士の仕事や公認会計士制度の理解を向上してもらうための施策等を展開し、全世代の学生に向けて公認会計士の周知のための活動を行っています。
 29. 近畿会としては、このように公認会計士が多様な領域でより一層活躍するための支援を行うことにより地域社会、地域経済の健全な発展に貢献していく所存です。

以 上